



Windom の解答速報 東京慈恵会医科大学 英語



- (A) 3
(B) 1
(C) 3
(D) 4

- (A) (1) dot (2) move
(B) (3) peas
(C) (4) rooting

- (1) (b)
(2) (b)
(3) (a)
(4) (a)

- (1) (d)
(2) (b)
(3) (c)
(4) (a)

- (1) (a)
(2) (a)
(3) (d)
(4) (c)

- 問 1 (1) the affected area
(3) the aversion

- 問 2 (2) 4
(6) 2
(7) 2
(8) 2

- 問 3 (C)
問 4 3
問 5 麻酔剤

- 問 6 4
問 7 今日の基準によればひょっとしたらかなり残酷で

あろうが、数十年の間、痛みの知覚の開始を理解しようとして、「ピンで刺す」多くの実験が眠っている赤ん坊に対して行われた。

解答例

Students are called on by the teacher and solve problems on the blackboard. They are embarrassed when they make mistakes. It becomes more probable that they come to hate that subject when they feel embarrassment.

解答例

Called on by a teacher, students solve a problem on the blackboard. If they make a mistake, they become embarrassed. And if they are embarrassed, they are very likely to dislike the subject.

解答者講評

大問 7 題は例年通りだが、2010 年に一度姿を消した発音問題が以前よりも解き易い形で復活した。、の語彙問題、の文連結問題、の文構造把握問題はレベルが上がって解きにくくなった。正誤問題は消えた。長文のレベルは昨年並みだが、語彙選択問題で語彙のレベルが上がった。

の発音問題は標準レベルで特に問題はない。

の語彙記述問題は、(B)の We are like as two(peas) in a pod. [我々はうり二つである]という頻出の表現以外は、選ぶのに非常に苦労する問題である。(A)の on the (dot)[時間通りに]や get a (move) on[急いで出発する].(C)の(rooting) for 「～を応援している」などは一般の受験生のレベルをはるかに超えている。

の語彙選択問題では、(3)の was (but) an in no cent child[無邪気な子供にすぎなかった]と(4)の grab the (initiative) and do ~[率先して～する]は選ぶのに困難はないが、(1)の(functions)に「行事」の意味があることや、(2) a (speck) of dust 「一片のほこり」はかなり難しい。

の文連絡問題も例年とは打って変わって難しくなっており、(1)の fall through the cracks 「無視される」、(2)had been primed to ~「～するように教え込まれていた」、(3)の lends itself to ~「～に適している」、(4)の kept his nose to the grindstone 「あくせく働いた」など、すべて受験生には酷な出題である。

の文構造把握問題は、(1)と(3)は比較的容易だが、(2)と(4)は選ぶのに苦労した人が多かったかもしれない。(1)は、To design a workable unit「実行可能な装置を設計するためには」が、不定詞の目的用法となっており、a great many difficulties「非常に多くの困難」が主部、have to be overcome「克服されねばならない」が述部である。(2)の come what may「何が起ころうとも」は頻出の熟語表現、The party would go ahead with the program as planned は、「そのパーティーは予定通りの計画で進行するだろう」である。(3)の The county has events「その郡では催し物がある」の後の to 不定詞以下は形容詞的に events にかかる。to suit most tastes and ages in comfortable surroundings は「心地よい状況の中で、大抵の人の好みと年齢に合う」である。(4)の call ill afford ~ は「~する立場にはない」という意味で、The federal government can ill afford another setback of this sort.「連邦政府は、この種の新たなへまを行える立場にはない」となる。

VI の長文では、duck「ひょいとかがむ」= stoop, wriggling「身悶える」= writhing などの語彙が受験生レベルを超えているが、指示語内容把握問題、文挿入問題、単語挿入問題、語句内容把握問題、内容一致問題などは、標準レベルである。和訳の文構造も例年並で、難しすぎず簡単すぎずだが、pin-prick「針でちくりと刺す」、onset「始まり」がきちんと把握できたかどうかで点差が開くだろう。

VII の英訳は昨年よりは訳しにくかったかもしれない。日本文自体は易しいが、「指されて」= called on や、「恥をかく」= be embarrassed、「確率が高い」= be highly probableなどを訳せるかどうか問われている。「教室で恥をかく」などの場合の「恥をかく」は「きまり悪い思いをする」と同意で、be embarrassed を用い、道徳的に間違って良心の呵責を感じるという意味での be ashamed を使わないことが肝要である。

全体として今年の問題は例年よりとっつきにくい問題が多く、平均点は下がったと思われる。

合格ラインは70%くらいだろうか。